

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室では、筑波大学や大阪がん循環器病予防センター等の協力研究機関との協働により「社会環境から個人要因の認知症発症プロセスの解明に関する社会疫学研究」を実施しています。

【研究課題名】

社会環境から個人要因の認知症発症プロセスの解明に関する社会疫学研究

【研究期間】

倫理委員会承認後から 2024 年 3 月 31 日まで

(研究対象地域との調整により、倫理委員会の承認のもと、延長することがあります)

【研究の意義・目的・方法】

高齢者介護の主要な原因であり、今後益々増大すると考えられる認知症について、その予防を進めるために、地域の社会環境・経済要因から、個人の社会経済・心理要因、生活習慣、心理・生化学マーカー、生物学的危険因子、動脈硬化、認知症の発症への一連のプロセスを明らかにします。具体的には、秋田・茨城・大阪の自治体（CIRCS 研究）や、次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）の自治体の 40～69 歳住民約 11 万人を対象に認知症の発症登録を行い、生活習慣や生物学危険因子に加えて、地域の社会環境・経済要因、個人の社会経済・心理要因を含めた認知症の発症要因の抽出を行います。

【研究結果の公表】

研究結果は学会や学術雑誌で発表するとともに、研究対象地域に還元します。研究対象地域のホームページや広報等に概要が掲載されることがあります。

【研究代表者】

大阪大学医学系研究科公衆衛生学 教授 磯博康

【研究組織】

協力研究機関

大阪がん循環器病予防センター（責任者・木山昌彦副所長）

筑波大学医学医療系社会健康医学（責任者・山岸良匡准教授）

国立がん研究センター（責任者・澤田典絵室長）

【個人情報の保護について】

本研究では、研究対象地域より健康診査の検査項目や、レセプト情報、異動情報、疾病発症情報などの保健福祉医療等の保健事業資料の提供を受けて研究を実施します。これには

個人情報として、氏名、生年月日、住所、個人を特定するための番号が含まれます。個人情報は大阪大学と筑波大学において厳重に管理され、本研究以外の目的に使用されることはありません。研究を行うにあたっては、分析の段階で個人情報を削除し、番号などに置き換えたデータベースを構築した上で（連結可能匿名化）、大阪大学、筑波大学又は協力研究機関において集計・解析を行い、集団全体の分析結果として公表し、又は研究対象地域に還元します。個人の結果が公表されることはありません。メタアナリシスなど他の研究機関との共同研究に参画し、その一部として利用する場合がありますが、その場合も氏名などの個人情報を含まないデータだけを利用します。したがって、この研究により、住民の皆さまが不利益を受けたり、危険性が生じる可能性はまずありません。しかし、ご自身が分析の対象となることを希望されない方がおられましたら、匿名化する前であれば、分析から除外するなどの対応ができますので、下記へお問い合わせ下さい。

【本研究に関する問い合わせ先】

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 mkyomu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp